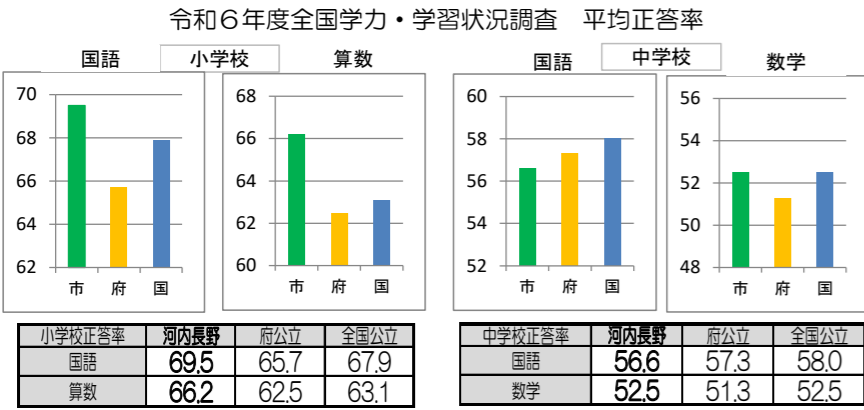


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果考察【概要版】

令和6年度全国学力・学習状況調査について (令和6年4月18日実施)

1. 調査の目的
義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象
(1) 国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象とする。
なお、公立学校には公立大学法人が設置する学校を含むものとする。
ア 小学校調査 小学校、義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部第6学年
イ 中学校調査 中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部第3学年
(2) 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒のうち、調査の対象となる教科について、以下に該当する児童生徒は調査の対象としないことを原則とする。
ア 下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒
イ 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の教科の内容の指導を受け



令和6年度 全国学力・学習状況調査から確認できた成果と課題

成果について

☆授業における成果

- ◎文章から読み取った情報と情報、語句と語句の関係を理解して使うこと(小_国語 ②-1)
- ◎基礎的な知識・技能の習得(小_算数の知識・技能の観点)

☆よくできていた問題

- ◎小学校 国語：物語を読み、人物像や全体像を具体的に想像したり、表現を考えること
算数：角柱の底面や側面に着目し、五角形の面の数について言葉を用いて説明すること
- ◎中学校 国語：短歌に用いられている表現について正しく捉えること

課題について

★全体について

- 目的に応じて、自分の考えが伝わるようにまとめ表現すること(小・中_国語の記述式形式)
- 教科横断的な視点で学習を成り立たせていく授業づくり(中_数学のデータの活用領域)

★各教科について

- 小学校 国語：図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
算数：道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、理由を記述すること
- 中学校 国語：表現の効果を考えて描写する等、自分の考えが伝わるように工夫すること
数学：データの分布の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

課題解決に向けた今後の市としての取組み

☆目的に応じて、自分の考えをまとめ表現する

- ① すべての教科で文章を書く取組みを実施
- ② 資料から必要な情報を選び、書き表し方を工夫する場面の設定
- ③ 話し合い活動では、課題や目的を意識しながら、周りの発言と自分の考えを比較したり、整理して考えをまとめる学習活動の設定

☆教科横断的な視点で学習を成り立たせていく授業づくり

- ① 課題解決に向けて、主体的に情報を集めて整理したり、自分の考えをまとめたりする授業の実践
- ② 生活と結び付けて考えたり、活用できる場面の設定
- ③ 学ぶ価値が実感できる場面の設定

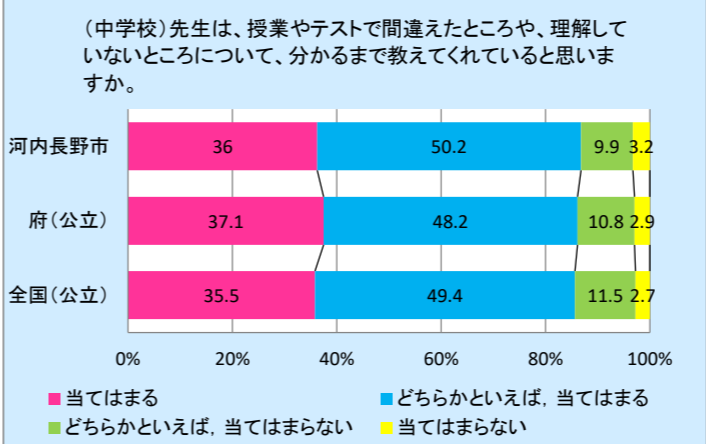
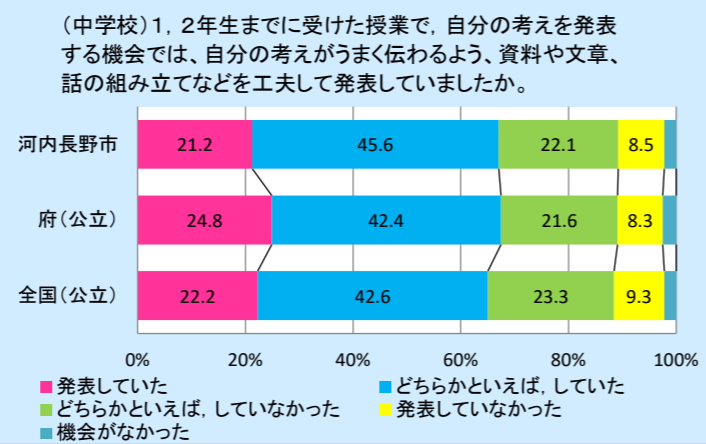
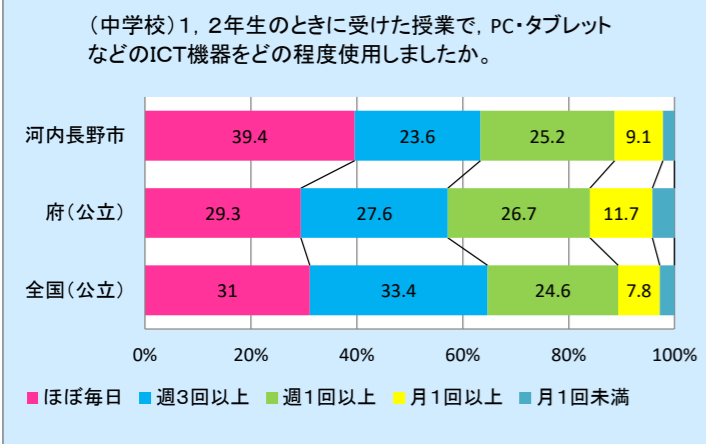
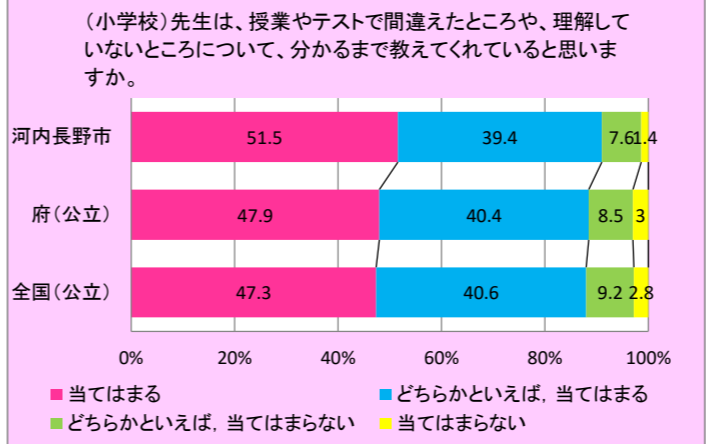
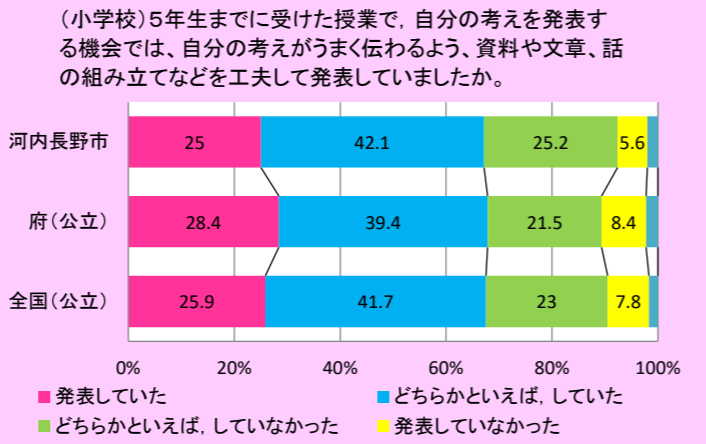
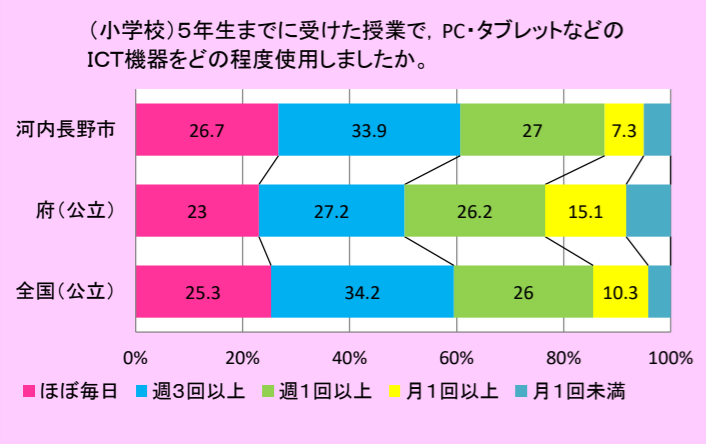
☆ICT機器を活用した学習活動の充実

- ① 1人1台端末を活用して他者の意見と比較したり、様々な考えを交流し自分の考えを再構築したりする場面の設定
- ② シンキングツールを用いて考えを整理し文章の、構成を意識しながら、表現を工夫する場面の設定
- ③ 遠隔合同授業を学校間で実施し、小グループで協働して課題解決を図る場の設定

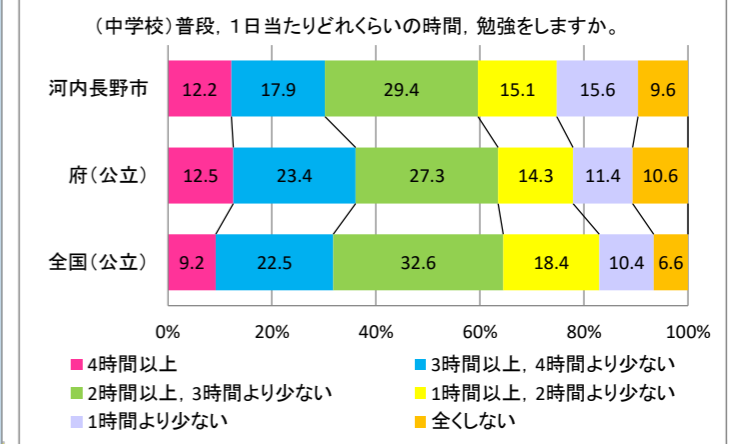
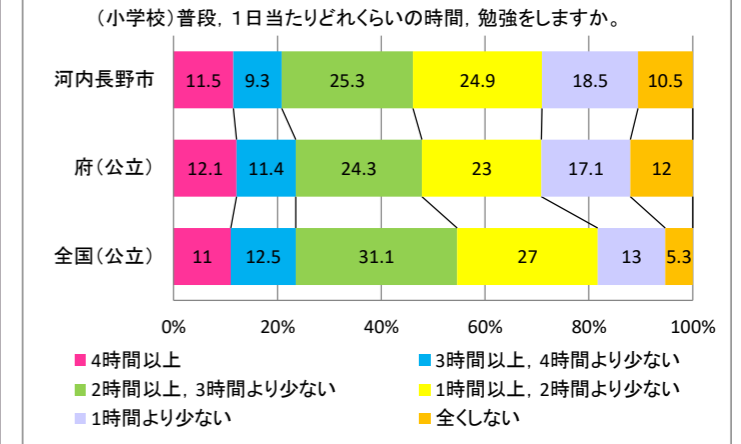
☆学校全体で組織的に取組む授業改善

- ① 主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業づくり
- ② 目の前の児童生徒の課題に正対した取組み
- ③ 教育活動全体で言語活動の充実

<学校での授業についての児童・生徒質問事項>



<家庭学習習慣に関する児童・生徒質問事項>



小・中学校ともに、全国同様に1人1台学習者用端末などを積極的に活用した授業が進められていることがうかがえる。現在、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業実施に向けて、研究指定校を中心に「思考スキル(シンキングツール)」を活用した授業改善に取り組んでいる。

本市課題「目的に応じて、自分の考えをまとめ表現すること」に関する項目では、肯定的回答が小学校・中学校ともに国・府とほぼ同様であった。各校においては、全教科で教科横断的な視点に立った本市課題に正対した授業づくりを進めていく必要がある。

小・中学校において、児童の実態を把握し、個に応じた学びや基礎的な知識・技能の定着に向けて、丁寧に取組みを進めていることがうかがえる。児童生徒一人ひとりが確かな学力をつけるため、小中学校が連携を深め、9年間を通したきめ細かな指導に取り組んでいく。

小学校において、1日に1時間以上学校以外で勉強している割合が全国に比べて低く、全くしないと回答した児童の割合が高い。中学生は、4時間以上の割合が高く、1日に1時間より少ない・全くしないと回答した生徒は全国に比べて高い割合と二極化しており、家庭学習の定着への取組みが必要である。